

青木 厳議員



人の絆で減災力を、
高めよう！

「大災害発生時における町の取るべき防災対策について」

何人ぐらい収容できる津波避難タワーを、いつどこに建てるか、研究しているのか？

町長が言う津波避難方法と避難連絡方法の具体的な方策とは？我が町の災害時消防体制と土砂崩れを町はどのように研究し、対策を考えているのか？

また、大災害時に役場の職員は、どのように招集するのか何人程度役場に招集できるか、初動体制が構築できるのか？

備蓄計画の見直しと備蓄場所の周知方法を研究しているのか？

強く生き抜く力を身につける防災教育とは、具体的に

的にどんな教育かを伺う？



3階建て以上で、危険が少ないであろうという、既存の建物の所有者にご了解を得て避難所としての協力を求めていることが大事であると思っています。何人というのは、大変難しいです。私は、すべての人が逃げられ、助けられる体制を考えていきたいと思っています。

2点目の避難方法は、町民の皆さんが現在いる、またはお住みになっているところ、この四方八方を点検していただき、できる限り海岸に近い方は高台へ避難していただく。連絡方法は、家族で話し合い、関東の人は関東以外の親戚、友人、知人の家を連絡先にしたり、あるいは、メール、インターネット等を利用して、安否確認を利用されるなど、日ごろからの心構えが大事であると思っています。

3点目の消防体制、土砂崩れ、これは初動態勢が大事だと思っています。ただし、道路や水利が確保されないと、救助

岩手県大槌町の現状



活動はできません。したがって、企業や隣近所、家族、地域の互助の精神を育ててまいりたいと思っています。そのためにも各家庭でもスコップやチェーンソー、燃料、車のジャッキ、てこ等を常備する必要があります。

4点目の職員が全員常駐している時間帯ならば課題は少なくて済みます。夜中や早朝も考慮すれば、人手は当然不足してまいります。せめて3日間、頑張られる体制を考えてまいりたい。他市町へ勤務する公務員で、当町にいる方々とも連携をとり、そういった体制、または自治会、それぞれの企業の方々などと共通認識を高めていけたらと考えています。

一般質問

村田知章議員



危険を事前に回避！

「倒木の危険にある枯れ木について」

写真をご覧いただきたい。以前より住民が町に危険を指摘してきた枯れ木が強風で倒れたものだ。別の場所でも枯れ木が民家の屋根を直撃している。また、2000年に大ケ建で倒木による中学生の死亡事故も起きている。住民から危険と指摘されていたにもかかわらず、民有地ということとで放置されてきた結果の惨事だ。このように危険になるのが分かってい



道をふさいだ倒木

ても、町の対応は「民間と民間の問題は不介入」という理由で、所有者への注意のみである。民有地と言っても、枯れ木などの放置で、地域住民の命や安全、安心、財産が脅かされる状態にあるときに、町として有効な対処ができるような条例を定める必要があると思うが、町長の考えは？

他の自治体では代執行など含めた条例を定めるところもある。

福島第一原発の放射能汚染事故をうけ、脱原発の流れが加速している。グリーン電力を選んで購入することも可能だ。公共施設にグリーン電力を導入して、積極的に再生可能エネルギーの使用を高めるべきだと思うが。

自然エネルギーへのシフトは、今まで以上に必要になってくると考えます。町も賛助会員の小田原市低公害車普及促進会議の中で、グリーン電力の導入も含めて検討したいと思っています。

アレルギー対応食品の備蓄について

昨年、同じ所有者の方には別の木も切っていたいただいた経緯があります。また、町は平成14年に倒木の処理を行政代執行した事例もあります。対応してまいります。

「グリーン電力の導入について」

「グリーン電力の導入について」

アレルギー対応食品の備蓄を実施します。

災害時の食糧備蓄は、町内のみならず、町外から来ている人にも対応できるようにしておく必要がある。そのためにアレルギー対応食品の備蓄が必要だと思ふが。